

北海道剣淵高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
Ⅰ グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	（1）全ての科目において、プロジェクト学習を取り入れ、課題解決学習を主軸とする学習を実践する。	（1）課題探究学習において、プロジェクト学習を取り入れた学習を展開することができた。また、地域の課題解決へ向けた取り組みも実践することができた。	（1）課題解決学習のテーマとして、さらに地域が抱える課題を題材とした学習を展開する。	5
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	（1）剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タルマ市の特産物キヌアの栽培を通して、グローバル教育を実践する。	（1）剣淵町の特産化として注目されているキヌアのPR活動として、キヌアサミットに参加し、学習の理解を深めた。	（1）国際的な視野に立ち、農業科目に英語教育を取り入れた教科等横断的な学習を実践する。	5
Ⅱ 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	（1）町の特産物であるジャガイモやマメ類等を生産することで、地域の理解と栽培過程を学習する。 （2）キヌアの栽培を実践し、特産物の理解を深めるとともに活用方法についても学習する。	（1）地域の気候に最適なジャガイモや豆類の栽培を通して、地域の農業理解に努めた。 （2）キヌアを主軸とする飼料化に係わる教育活動を実施した。	（1）地域の主力である野菜類を栽培し、地域の農業理解を進める。 （2）キヌア活用をさらにに行い、地域の特産化としての認知度を高める。	5 5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	（1）2年次における町内農家委託実習、3年次における産業現場実習を実施し、地域産業構造や6次産業など、地場産業の理解に努める。	（1）2年次、3年次それぞれの実習を実施した。地域の方々の協力を得ながら、地域一体となり産業教育を遂行することができた。	（1）2年次の町内農家実習、3年次の産業現場実習の充実化を図り、生徒一人ひとりの産業理解に努めていく。	5
	5 「地球環境を守り創造する学校」	（1）温室栽培における冬季のハウス施設の暖房を節約（灯油の使用を抑制）。 （2）プロジェクト学習における循環型農業の推進に努める。 （3）バイオ炭を活用した環境保全型農業を推進する。	（1）暖房を極力抑制しながらも、冬季野菜栽培を実施した。 （2）養鶏を実施し、糞尿を堆肥化することで循環型農業を実践した。 （3）バイオ炭を土壌に混和し、環境保全教育を推進した。	（1）エネルギー問題を常に意識した農業生産活動を実践していく。 （2）環境に配慮した活動を展開していく。 （3）ゼロカーボンの実現に向けた取り組みを推進していく。	4 5 5
Ⅲ 地域環境を守り創造する学校	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	（1）絵本の里ならではの取り組みとして、絵本を教材とした地域資源を活用し、情操教育に繋げた取り組みを実施する。 （2）道北の海洋副産物を活用した農業生産を推進する。	（1）絵本の町としての教材を活用した情報教育を実施した。 （2）道北の海洋副産物であるホタテの貝殻などを飼料化し、養鶏を行った。	（1）町の資源である絵本を活用し、情操教育をさらに深めた活動を実践していく。 （2）道北の未利用資源をさらに開拓し、有効活用できる学習を図る。	4 5
	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	（1）ICTを用いたスマート農業について、近代的農業経営における学習を実践し理解を深める。	（1）スマート農業教育の一環として、国際農業機械展へ視察し、農業機械への理解を深めた。	（1）スマート農業教育を実践するため、最先端の農業教育を進めていく。	5
Ⅳ 地域交流の拠点となる学校	8 「地域防災を推進する学校」	（1）定期的に防火査察を実施し、日頃から地域防災意識を高める。 （2）自然エネルギーの活用を意識した教育を実践する。	（1）防火査察を月1回実施し、防災意識を高めた。 （2）太陽光パネルなどを活用し、自然エネルギー活用の教育を実践した。	（1）防災意識を高める活動を進める。 （2）さらなる自然エネルギーを活用できる教育を展開していく。	5 4